



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3927 号 2017.9.29 発行

できる！できない？心配しすぎるより のびのび「発達支援玩具」



東京新聞 2017年9月29日
鍵付きの扉を開け閉めして遊ぶ女兒。10種類の鍵が付いている=東京都港区で

乳幼児の発達を促すおもちゃ「発達支援玩具」が注目されている。玩具は脳科学の知見に基づき、米国で開発された。これまでは医療や福祉の現場で利用されてきたが、わが子の成長や発達を気にする一般家庭にも広がりつつある。（今川綾音）

東京都港区のクレヨンハウスのおもちゃ売り場。未就学児から小学校低学年ぐらいの子どもが手を熱心に動かし、おもちゃで遊んでいる。

売り場の一角に、常時十数種類の発達支援玩具が並ぶ。昨年新たに設置したこのコーナーでは、いずれの玩具も試し遊びできる。

未就学の男児は、六面の木板に鏡や光る素材を貼り付けた回転式ドラムに夢中。光を反射しながら音をたてるドラムに興味深そうに回している。別の女兒は、十枚の扉の付いた木製の四角い箱で

遊ぶ。扉には種類の異なる鍵が付いており、開けたり閉めたりを繰り返している。

売り場には、来店者から「うちの子、□歳なのに△△ができないんです」といった相談が寄せられる。発達支援玩具は、年齢や発達度合いに応じ、成長に必要な刺激を与えるものだ。

回転式ドラムは、周辺の光や音に関心のない子から注意を引き出す玩具。標準的なゼロ歳児がするとされる「大人の顔を二、三秒見つめる」「両手を組み合わせて指を動かす」「音の方向を探す」といった動きを促す効果が期待できる。

鍵付き扉のある木箱は三歳児以降の子向けの玩具。指先で鍵を開け閉めしたり、扉の中におもちゃを入れて回転させ、どこに入っているかを当てさせたりして遊ぶ。楽しみながら指先の機能や記憶力を刺激し、探索能力を高める。

玩具は手触りのよい木製。米国の教育心理学博士のラリー・メストネックさんが一九七〇年に開発を始めた。博士は「子ども全般の成長の手助けをしたい」と、脳科学に基づき認知能力などを刺激するおもちゃをつくり、「タグ・トイ」と名付けた。

昨年「タグ・トイ」を取り扱うクレヨンハウスの岩間建亜（たけつぐ）副社長は「純粹におもちゃとして面白い。遊び方の懐も深く、結果として形も数も記憶力も身に付くのがいい」と話す。一般家庭向けに売り出したのも、「最近、学校も親も周りの子と少し違うだけで、『成長が遅れているのでは』と問題視しすぎる傾向にあるが、小さい頃から遊びを楽しみながら子の力は伸ばせるから」と説明する。

発達支援玩具はもともと療育や保育の現場で活用されてきた。発達障害児の保育支援をするNPO法人国際臨床保育研究所（奈良市）が二〇一〇年から輸入を始め、軽度発達障害児や学習困難児のための専門教具として広めてきた。

同研究所の勝山結夢（ゆむ）研究員（30）は、発達支援玩具が発達障害などの早期発見と子どもの成長支援にもつながるといふ。「経験のある保育者の目で遊ぶ様子を見れば、その子の発達の度合いを確かめられる。さらに保育者が一緒に遊ぶことで、年齢に応じた発達を促すこともできる」と話す。

玩具は約七十点あり、中心価格帯は二千円台から五万円台。詳細は、同研究所のホームページにも載っている。問い合わせは、クレヨンハウス＝電03（3406）6420＝へ。

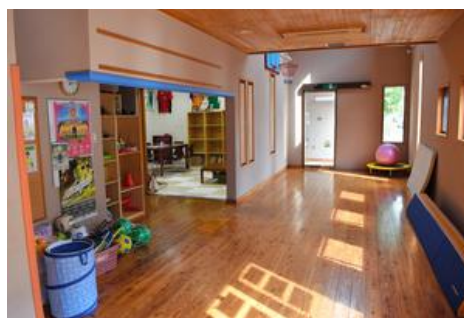
宮城）障害児の居場所、岐路に 放課後デイ、要件厳しく 井上充昌

朝日新聞 2017年9月29日

トランプで遊ぶ「みらい宮城野」の子どもと職員たち＝25日、仙台市宮城野区



障害のある子どもが、放課後を楽しく過ごせる居場所をつくる「放課後等デイ



サービス」の制度が、曲がり角を迎えている。開始から5年を迎えた今春、厚生労働省が事業所の要件を厳しくした。子どもの成長を見守る県内の現場では、何が起きているのか。

仙台市宮城野区の放課後等デイサービス事業所「みらい宮城野」では25日午後、小1～中2の8人が元気な声を響かせていた。

「やった、『大富豪』だ」。トランプの手札を出し終わった男の子が歓声を上げると、職員らも笑顔で「よかったね」と応じた。そばでは宿題のひらがなの書き取りを始める子もいる。それぞれ自分の時間を過ごしているが、そのうち互いにじゃれ合って笑顔をはじめさせた。



実名報道の在り方など議論 マスコミ倫理懇

NHK ニュース 2017年9月28日

全国のマスコミ関係者が集まってメディアの役割について話し合う大会が長野市で開かれ、実名報道や災害報道の在り方などを議論しました。

この大会は全国のテレビ局や新聞社などで作る「マスコミ倫理懇談会全国協議会」が毎年開いています。

61回目のこの日は「いま、メディアの信頼と役割は」をテーマに長野市で行われています。大会ではまず、皇室の歴史に詳しいノンフィクション作家の保阪正康さんが講演し、去年8月、天皇陛下が退位の意向が強くにじんだお気持ちを表明されたことを例にあげて、報道の役割を話しました。この中で、保阪さんは「表明されたお気持ちには、戦没者の慰霊で各地を訪問されている天皇陛下の『戦争は絶対にしない』というメッセージが込めら

れていると考えている。メディアは『知る権利』の代行者として背景的な情報を伝えるべきだ」などと述べました。

この後、7つのグループに分かれて議論が行われました。このうち、実名報道に関する分科会では、インターネット上の過去の逮捕記事などの削除を求める動きがあることについて、「記事の変更は歴史の改変につながる危険がある」として、削除に反対する英米のメディアなどの姿勢が紹介されました。

また、犠牲者が匿名で発表された障害者施設の殺傷事件について、一人一人の人生を通じて失われた命の重みを伝えることが大切だという意見が出されたほか、実名報道の意義を社会に丁寧に説明することが大事だといった意見も出されました。

災害報道に関する分科会では、災害が起きていない段階で地域の人たちに備えの大切さや危険性をどう伝えるか議論しました。この中では、南海トラフの巨大地震で大きな津波が想定される高知県で、中学生に記者として東日本大震災の被災地などを取材してもらい、体験を若い世代に伝えようとする取り組みなどが報告されました。

大会では29日、インターネットが普及する現代のメディアの役割について確認する申し合わせを採択することになっています。

日本の障害者の芸術作品など披露、初のプロジェクトを仏で開催

TBS ニュース 2017年9月29日

日本の障害者が制作したアート作品や伝統芸能などを披露する世界初のプロジェクトが、来月、フランスで開催されます。

全身をトゲのようなものに覆われた作品。知的障害がある日本人の男性の作品です。日本の障害者による様々な芸術作品を紹介する大規模な国際交流プロジェクトが、来月21日から、フランス・ナント市で初めて開かれます。ナント市は世界でも有数の芸術文化都市で、プロジェクトでは日本の障害者42人が制作した絵画などの芸術作品およそ900点がフランスで初めて展示されるほか、石見神楽などの伝統芸能なども公演されます。

「障害者は都市にとって疎外されているが、文化芸術を通じて他の人と繋がることができる」（「シテ・デ・コングレ」ラシェル・ボシュ理事長）

プロジェクトでは、日本とフランスの障害者がともに参加するワークショップなども行われるということです。

「社協ヒーロー」の缶バッジ 小野高生がデザイン 神戸新聞 2017年9月29日 バッジをデザインした（左から）宮脇思那さん、後藤あいさん、中美聖さん、深山望彩さん、長井利桜さん、宮下夏帆さん＝小野高



兵庫県の小野市社会福祉協議会がオリジナルのヒーローキャラクター「おの社協戦士ウイングレット」を描いて制作した缶バッジ6種類に、小野高校家庭科研究部員6人のデザインを採用した。1回100円で同市社協グッズが当たる「ガチャガチャ募金」の景品として10月から使い、収益を福祉向上に充てる。

ウイングレットは2009年、赤い羽根共同募金のキャラクターとして誕生。ハンカチなどに描かれ、ガチャガチャ募金の景品に使われている。ガチャガチャは白雲谷温泉ゆびか（同市黍田町）▽市立児童館チャイコム（同市浄谷町）▽イオン小野店（同市王子町）一に設置し、年に約750個が売れているという。

缶バッジのデザインは、夏休みのボランティア体験に協力した市内の中高生15人が42点を提出した。ピンク色のハートを背に飛ぶウイングレッドを描いた同研究部部長の2年深山望彩さん(17)＝西脇市＝は「困っている人に愛を届けたいと思った。地域の人に少しでも役立つならうれしい」と話していた。(笠原次郎)

3歳の娘を針で刺し続ける...妻はなぜ虐待をしてしまったのか

ダイヤモンドオンライン 2017年9月29日
木原洋美【医療ジャーナリスト】

写真はイメージです
きはら・ひろみ/宮城県石巻市の漁村で生まれ、岩手県の山村で幼少期を過ごし、宮城県の穀倉地帯で少女時代を送る。明治学院大学在学中にコピーライターとして働き始め、20代後半で独立してフリーランスに。西武セゾングループ、松坂屋、東京電力、全労済、エーザイ等々、ファッション、流通、環境保全から医療まで、幅広い分野のPRに関わる。2000年以降は軸足を医療分野にシフト。「常に問題意識と当事者感覚を大切に取材し、よ〜く咀嚼した自分の言葉で伝え、現場と患者の架け橋になる」をモットーに、「ドクターズガイド」(時事通信社)「週刊現代 日本が誇るトップドクターが明かす(シリーズ)」(講談社)「ダイヤモンドQ」(ダイヤモンド社)「JQR Medical」(インテグラル)等で、企画・取材・執筆を深く、楽しく手掛けてきた。2012年、あたらす株式会社設立(代表取締役)。2014年、一般社団法人 森のマルシェ設立(代表理事)。森のマルシェでは、「木を遣うことが森を守ります」の理念を掲げ、国産材の樽で仕込む日本ワインやパルサミコ酢の開発等、国産材の需要を開拓する事業に取り組んでいる。



長年連れ添った妻やパートナーが突然キレる要因は何か。なぜ、いつも不機嫌なのか。女性特有のカラダの不調や悩みに起因することが多い。しばしば男女間、夫婦間に深いミゾを生じさせる女性特有の病気・体の不調について、実際の具体例を挙げて解説する。

突然怒り出した妻は 愛娘を針で刺し続けた

娘(3歳)と2人きりで過ごす、普段通りの夜だった。

夫の正俊さん(仮名・38歳)は仕事で、帰宅は連日10時を回る。

「さあ、やるぞ」

午後7時。夕食の片づけを終えた薫子さん(仮名・35歳)は、張り切った様子でパソコンの前に座った。彼女は最近、市が主催するカルチャークラブで知り合った友人に誘われ、仲間4人と共にあるトークイベントの開催に取り組んでいる。今夜はトークのテーマを考えて、仲間たちへのプレゼン用書類を作成しなくてはならない。

すぐそばで、絵本をめくっている娘。まだ字は読めないが、読んでいるつもり。可愛い声で、何やら楽しそうにしゃべっている。

.....1時間が経過した。思考はまったく進まなかった。あれこれ思いつくテーマは、どれもありきたりでつまらない。

(こんなんじゃ馬鹿にされる)

そう焦るほど、頭は働かなくなる。

娘は寂しくなってきたのだろう。「ねえ、ママ」と、しきりに話しかけてくる。無理はない。1時間も一人遊びするなんて、普段では考えられない。母子はいつも、夕食から寝るまでの時間、楽しくおしゃべりしているのだ。

(この子を寝かしつけてから考えようかな)

とも思ったが、それにしても、まったく考えが湧いてこない自分に腹が立ち、イライラしてきた。

「ねえママ。ママー、もしもし、聞こえてまちゅか」

何度話しかけてもまともに返事をしない母親の耳元で、娘はおどけた様子で叫んだ。

「ごめんごめん、聞こえてますよー」

いつもの薫子さんなら、そう返答して、娘をむぎゅーっと抱きしめる所だが、今日は違った。

「うるさい、うるさい、うるさい。ママは忙しいの！あんた、そんなこともわからないの。馬鹿じゃないの」

小さな肩を掴んでゆさぶり、怒鳴っていた。

「ママ...」

娘はきょとんとしたまま、固まっている。

「あなたは本当に悪い子ね。お仕置きをしないと、いけないわ」

つぶやいた薫子さんが手にしたのは、裁縫に使う縫い針だった。なぜ、そんなものを取り出したのか、自分でもわからなかった。

「ママ、ごめんなさい、ごめんなさい」

泣いて謝る娘の身体を押さえつけ、指、腕、背中、足.....全身をチクチクチクチク刺し続けた。

「悪い子だ、悪い子だ、こうしてやる」

「痛い、痛い、痛い。やめて、やめて、やだー」

はっと我に返ると、もう30分以上も刺し続けており、娘の身体には、無数の血のつぶつぶが浮かんでいた。

(あ、いけない。私、何やってんだらう。こんなに血だらけにさせて。旦那にばれたら怒られちゃう。早くきれいにしないと)

奇妙なことに、娘が可哀そうとは思わなかった。(夫が帰宅する前に、この虐待の痕跡を消さなければいけない) 頭の中は、そのことでいっぱいだった。

繰り返す虐待を止めて 仲間たちにカミングアウトした

「私は鬼なの」

1ヵ月半後、イベントの打ち上げで訪れたビアホールで、薫子さんはいきなりカミングアウトした。

初めて娘をチクチクした夜、結局資料はまったく作成できないまま、彼女は朝を迎えた。強烈な自己嫌悪に襲われたのは深夜、娘の寝顔を見ている時だった。

(どうかしている私。なんてことをしてしまったんだらう。ごめんね、ごめんね)

娘の寝顔に、心の中で謝り続けた。

しかし、その後も、二度、三度と、薫子さんは「チクチク」を繰り返してしまった。おぞましいことに、娘の悲鳴を聞き、血の球が浮くのをみると、ほんの一瞬だが気分がスツとした。もちろんその後は、凄まじい自己嫌悪に襲われたが。

「いけないとわかっているし、娘を可愛いとも思っているのに、刺してしまうの。後でものすごく後悔するけど、刺している時はもう夢中で、自分の顔がなんだか笑っているような気がするんです」

告白に、仲間たちはしばし言葉を失った。薫子さんは何度か、打ち合わせに娘を連れて来ていたので、仲間は皆、可愛がってくれていた。

やがて、リーダー格の仲間が、静かに口を開いた。

「よく話してくれたね。薫子ちゃんがお嬢さんを愛しているのは知っているよ。優しい人だってことも知っている。それなのに虐待してしまうなんて。どうしちゃったんだらうね。打ち明けてくれたってことは、私たちに止めてほしいからだよね。気持ちの整理ができてなくてもいいから、思っていることを全部話してみて」

意外だった。当然叱責され、ひよっとしたら児童相談所か警察に、幼児虐待で通報されるかもしれないとさえ思っていたからだ。しかし彼女たちは、誰一人、薫子さんを責めなかったし、うろたえることもなく、じっと話を聞いてくれた。

蘇ったのは、父親に虐待された過去だった

薫子さんは職場結婚だ。勤めていたのは世界中に支社や工場を持つ大企業。語学が堪能

な彼女はその能力を活かして、海外から訪れるVIPや取引先関係者を、自社工場等に案内する仕事をしていた。

また、新製品発表イベント等の企画・運営も任されていた。非常に優秀な社員だったのである。

就活では、「一生働き続けられる、やりがいのある仕事」をめざして会社を選び、結婚後もバリバリ頑張ってきたが、妊娠・出産を機に退社した。

会社は福利厚生が整っており、周囲には仕事と子育てを両立させている女性がたくさんいたが、完璧主義の薫子さんは頑張り過ぎる傾向があり、夫婦二人きりの生活でさえ、きつそうに見えた。だから「両立は無理だろう」と正俊さんに言われ、もやもやした気持ちのまま退社したのだった。

それから約4年。家事も育児も全力投球してきたが、誰からも褒められない立場は、薫子さんにとって物足りなかった。

正俊さんは頼もしく、真面目な夫だが、仕事は忙しく、帰宅も遅いため、夫婦の会話はほとんどない。もちろん家事、育児は一切手伝ってくれないし、口出しもしない。

(もっと社会のためになる仕事がしたい)

そう思った時に誘われたのが、今回のイベントだった。

専業主婦は薫子さんだけ。ほかは大学院生、フリーランスのクリエイター、某企業の研究者という布陣。イベント運営のプロとして、薫子さんは大いに頼りにされ、うれしかった。

「それなのに、全然頭が働かなくて、パニックになってしまったんだと思う」

自己分析すると、仲間は大きくなずき、さらに聞いてきた。

「あなたは専業主婦という立場が物足りないのね。そもそも退社した時に、仕事を続けたいという気持ちが強かったのに、ご主人に無理やり辞めさせられたみたいな気持ちがあるのかな」

はっとした。夫は薫子さんの身体を気遣って退社を促した……と、彼女は必死に自分に言い聞かせてきた。しかし内心は、「辞めさせられた感」が強く、もやもやしていたのだ。

(でもどうして、自分は夫に、「仕事は辞めない」と宣言できなかったのだろう)

理由を探すうち、薫子さんの中に、子ども時代の記憶が蘇ってきた。

「私、小さい頃、父に虐待されていたの。詳しいことは話したくないんだけど、男の人がずっと怖かった。それで夫にも、言うべきことが言えていないのかもしれない」

グループカウンセリングに参加し 立ち直る道を歩き出す

その夜、ビアホールを出て駅の近くのカフェに行き、深夜まで話を聞いてもらった薫子さんは、自分と同じ悩み——つまり、我が子を虐待してしまう。なんとか虐待をやめたい——を持つ母親を対象にしたグループカウンセリングを受けてみることにした。

子どもの虐待や、虐待死事件が頻発する昨今。

最悪の事態を防ぐには、児童相談所への通報や被虐待児の保護は最重要事項だが、同時に、「虐待をやめたいのにやめられない」親のサポートも必要だ。

子どもの虐待はある意味「家族病」。家庭として、子どもを健やかに養育する機能が果たせない「機能不全」を起こしている状態は、実は家族全体の問題でもあるのに、母と子、父と子など、限定的にとらえているケースが少なくない。

薫子さんの娘に対する虐待にも、夫との問題、父親との問題など、治療すべき家族絡みの「心の闇」があるのだが、彼女は気がついていなかった。

グループカウンセリングの基本ルールは、「言いつばなし、聞きつばなし」。かつ、そこで聞いたことは、口外しないこと。

同じような苦しみを分かち合える仲間を得て、自分の内なる問題に気づき、向き合えたことで、薫子さんは変わり始めた。

近所の福祉施設でパートタイマーとして働き、かつ、ジェンダー問題について語り合い・発信するグループに入会し、勉強するようになった。正俊さんにはまだ言いたいことを言

えないし、虐待の件も内緒にしているが、娘への虐待をやめることには成功した。

今は娘の深層心理に、チクチク刺された記憶がトラウマとなって残っていないことを、ひたすら祈っている。(医療ジャーナリスト 木原洋美)

JKビジネス店、東京・大阪が9割 警察庁まとめ 日本経済新聞 2017年9月28日

女子高校生らに制服姿などで接客させる「JKビジネス」について、全国の警察が6月末時点で把握した店舗数は6都府県の114店で、9割が東京と大阪に集中していたことが28日、警察庁の初の調査で分かった。主要な業態別では、客にマッサージや添い寝をする「接触型」が全体の約7割を占めた。

都府県別の店舗数は東京78店、大阪28店のほか、愛知、宮城が3店、神奈川、静岡が1店だった。形態は営業所や待機室を設けた店舗型が6割強の72店で、残る42店は女子高校生らを客側に派遣する無店舗型だった。

警察庁はJKビジネスの営業形態を8つに分類。主な業態では「接触型」が81店で最も多く、客がマジックミラー越しなどで女子高校生らの姿を見る「鑑賞型」が11店、店内で酒類を含む飲食物を提供する「飲食遊興型」が10店と続いた。

4割強の50店は「接触型」などとの複合営業。うち約8割で客とデートや散歩をする「同伴型」の営業も行われていた。

警察は取り締まりを強化している。警視庁は4月、女子高校生に客とわいせつな行為をさせたとしてJKビジネス店店長の男を児童福祉法違反容疑で逮捕。今年1～6月の摘発件数は警視庁と大阪府警で計13件で、摘発者は経営者や客ら17人に上る。

行政側も対策を進めており、都では7月に規制条例を施行し、店舗型が43店から8月末に37店に減るなど一定の効果が出ている。愛知県も2015年、JKビジネスの営業形態を包括的に規制する改正条例を施行。大阪府や神奈川県も規制に向けた検討を進めている。

水着姿「撮影」から無店舗型まで JKビジネス実態調査 朝日新聞 2017年9月28日

女子高校生に接客サービスをさせる「JKビジネス」について、警察庁が初めて実態調査をした。6月末時点で全国に114店あることを風営法に基づく立ち入りなどで確認した。

警察庁によると、114店の約9割にあたる106店は東京都と大阪府に集中していた。マッサージや添い寝など「リフレ」と呼ばれる接触型が81店と全体の約7割を占めた。客がマジックミラー越しに制服姿を「見学」したり水着姿を「撮影」したりするなどの鑑賞型が11店、一緒に「散歩」する同伴型が2店あった。ネット上で営業する無店舗型が全体の約4割あった。

JKビジネスをめぐるのは、少女が犯罪に巻き込まれる温床になっているとして各地で法規制の動きがある。東京都では18歳未満が働くことを禁じた条例が7月に施行された。神奈川県や兵庫県などでも規制強化を検討。警察庁は悪質なJKビジネスの実態などの情報を提供し、法規制を促す。

今回の調査前の今年1～6月、警視庁と大阪府警はJKビジネスに絡み児童福祉法違反容疑などで計13件、17人を摘発した。摘発された店は閉店に追い込まれており、警察は今後取り締まりを強化する。(浦野直樹)

カウントダウンボードの点灯式 茨城国体まで2年 東京新聞 2017年9月29日

茨城国体の開会まで二年となった二十八日、県庁二階県民ホールでカウントダウンボードの点灯式が開かれ、残り日数の「730」がともった。

式典では、水戸市出身のシンガー・ソングライター磯山純さんが歌う茨城国体のイメージ

ジソング「そして未来へ」に合わせ、ひたちなか市の「なかや保育園」の園児によるダンスが披露された。



も設置された。(鈴木学)

活躍が期待される空手道の染谷真有美選手らが「結果で、恩返しができるよう頑張ります」などと抱負を語った。大井川和彦知事は「県民の力を借りて成功に導きたい」と意欲を示した。

国体と、引き続き開かれる全国障害者スポーツ大会は、公開競技などを含め計九十四競技が実施され、全四十四市町村で開催されることになっている。

カウントダウンボードはこの日、JR水戸駅に

坂本しのぶさん、水銀規制訴え 水俣条約会議でスピーチ 共同通信 2017年9月28日



28日、「水俣への思いをささげる時間」でのスピーチを終え、締約国会議の議長(左)と握手を交わす坂本しのぶさん=スイス・ジュネーブ(共同)

【ジュネーブ共同】熊本県水俣市の胎児性水俣病患者坂本しのぶさん(61)は28日、「水銀に関する水俣条約」第1回締約国会議が開かれているスイス・ジュネーブの国際会議場でスピーチし「水俣病は終わっていない。公害を起こさないでください」と訴えた。

坂本さんは、水俣病を巡る訴訟が続いていることや、水銀を含む汚泥が市内の埋め立て地で管理されていることから、水俣病問題は未解決だとした。

工場排水由来のメチル水銀に汚染された魚介類を母が食べ、胎内で罹患した体験から「女の人と子どもを守ってください。一緒にしていきましょう」と締めくくった。

ソロプチミスト呉 市などに車いす寄贈

読売新聞 2017年09月29日



◇認証40年記念、50台

国際ソロプチミスト呉(海生能子会長)は28日、認証40周年記念事業として、呉市と福祉施設に車いす計50台を寄贈した=写真=。

市役所1階で開かれた贈呈式には、同団体や福祉施設の関係者ら約200人が出席。海生会長は「市内にある様々な施設で、高齢者や障害者に活動の幅を広げてほしい」とあいさつ。小村和年市長が「体の不自由な方々の外出支援に役立てたい」と謝辞を述べた。

車いすは今後、市役所本庁舎など市の35施設のほか、社会福祉法人「白寿会」(呉市焼山北)など3施設に5台ずつ置く。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行